

旭川市, 泉大津市有機農業連携推進協議会 (北海道旭川市、大阪府泉大津市)

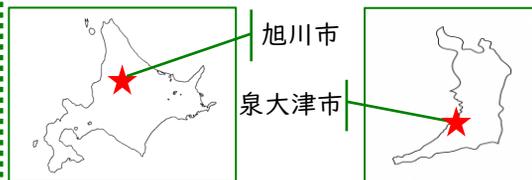
R5 補正
R6 当初

01

背景・課題

旭川市では、地域ぐるみで有機農業に取り組み、食と農の活性化を図ることで、農家の収入の向上を図るとともに、消費者の多様なニーズに対応できる産地を目指している。

その取組の一環として、旭川市と大阪府泉大津市は、両地域の持続的な発展に向けた農業連携協定を締結。この取組により、農地をほとんど持たない泉大津市では食料の安定的な確保、旭川市では米をはじめとする旭川産有機農産物の安定的な供給先が見込まれるとともに、旭川市内における有機農業への関心の高まりと生産意欲の向上が期待される。



構 成 員

旭川市、泉大津市、JAあさひかわ、JAたいせつ、JA東旭川、JA東神楽

品 目

水稻、トマト、かぼちゃ、ハーブ

成果目標

- 泉大津市学校給食での旭川産有機JAS認証米提供の継続
- 有機農業の取組面積の拡大 令和5年度 36.5ha → 令和10年度 56.5ha
- 有機JAS認証取得者の増 令和5年度 8人 → 令和10年度 11人

主な取組内容

- 泉大津市に旭川産有機米ななつぼしを20トン提供し、泉大津市内の学校給食（小・中学校）において計81回にわたり使用。また、プレ万博等各種イベントで、旭川産有機農産物をPR。
- 旭川市において、夜の動物園レストラン等各種イベントで、旭川産有機農産物をPR。
- 泉大津市の親子を対象とした旭川市内での有機農業体験。
- 有機農業実施計画の策定のための検討会を開催。



令和6年7月、生産地である旭川市と、消費地である泉大津市で、全国初の遠隔地連携によるオルガニックビレッジ宣言。



泉大津市内の小学校で旭川産有機農産物を提供。旭川市の生産者も泉大津市を訪問し、消費者（子ども達）と交流。



泉大津市の親子を対象に、有機農業の農場見学会や農業体験を実施。



旭山動物園で有機農産物を使用した夜の動物園レストランを開催。



泉大津市で開催されたプレ万博において、旭川産有機農産物やその加工品を販売。

普及に向けた取組

学校給食以外にも消費を拡大するため、泉大津市との取組をはじめとした一般消費者向けのイベント等を行い、旭川産有機農産物の認知度向上を図る。

農業者を対象に有機農業の先進地視察や研修会等を行い、有機農業への理解を促進し、有機農業の取組者及び取組面積の拡大を図る。

問い合わせ先

旭川市 農政部 農業振興課 TEL:0166-25-7438

有限会社中島生産組合（北海道中札内村）

R4補正
R5当初

02

背景・課題

有限会社中島生産組合は、平成13年に離農した法人牧場を引き継ぐ形で地元酪農家3名の出資により設立。令和元年に搾乳ロボット（40ポイントのロータリー式ミルクパーラー）を整備し、規模拡大を進めてきた。これまで、家畜ふん尿はほぼ全量を自己管理農地に還元してきたが、今後、牧場の規模拡大に伴い、更に家畜ふん尿の発生量が増加するため、適切な家畜ふん尿処理が困難となり、周辺環境に臭気や水質汚濁等の影響を及ぼすことが危惧されていた。

成果目標

目標年度：令和8年度

○売電量：2,457,180kwh/年

○バイオ液肥利用量：11,889t/年

○堆肥利用量：4,032t/年

○再生敷料利用量：1,172t/年

主な取組内容

エネルギー

酪農業で発生する家畜排せつ物をバイオガスの原料として活用。

家畜排せつ物由来のバイオガス発電を行い、二酸化炭素排出量の削減に寄与。得られた電力は自家設備で利用する他、売電し所得が向上。

資材

メタン発酵後の残さは固液分離し、固形分は堆肥や再生敷料、液体分はバイオ液肥として自家利用を行うほか、堆肥は地域の耕種農家へも販売し、地域の生産コストの削減に寄与。

●メタン発酵残さの利用方法



堆肥利用



再生敷料利用



バイオ液肥利用

普及に向けた取組

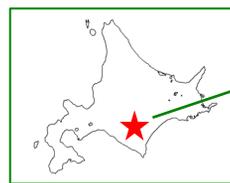
当取組は、村内初のバイオガスプラントとして、地域の酪農家のモデル的取組になることが期待されている。

バイオ液肥散布車（タンク容量10t×2台）を導入し、適期散布と散布作業の省力化を図り、バイオ液肥利用の普及に取り組んでいる。

問い合わせ先

有限会社中島生産組合 代表取締役 阿部敏巳 氏

TEL：0155-67-8801



中札内村

構成員

有限会社中島生産組合

品目



バイオガスプラント（R5年3月完成）